

ICT関連用語メモ

視線入力支援装置	専用の機器を使い、画面を注視(見つめること)で画面を操作することができる装置
音声入力ソフト	マイクに向かって話した音声を認識し、文字データとして入力するソフト
画面共有	パソコンやタブレット等に表示されている画面やデータを相手の画面に表示させる機能
フィッティング	調整を指し、一人一人異なる身体状態に合わせて二次障害を抑制しつつ、能動的に操作できるよう機器を設置し、環境調整を行うこと
AAC	拡大・代替コミュニケーション(Augmentative and Alternative Communication) 例:カード、文字盤、スイッチ、タブレット等

■「教育の情報化に関する手引」―追補版―について

文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html



■支援教材ポータル

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
<http://kyozai.nise.go.jp/>



■発達障害のある子どもたちのためのICT活用ハンドブック

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
 ①特別支援学級編 兵庫教育大学編 ②通級指導教室編 宮城大学編 ③通常の学級編 筑波大学編



■ICT夢コンテスト

日本教育情報化振興会
<https://www.japet.or.jp/activities/promotion-of-ict-utilization/ict-dream-contest/>



お問い合わせ

兵庫県教育委員会事務局 特別支援教育課
 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1
 TEL:078-362-3774



自立活動に
 ICTって
 ハードル高そう。。。。

ICTだから
 簡単にできる
 授業の工夫って？

令和3年度 文部科学省委託
 「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業」

自立活動×ICT

対面の方がいいのでは？
 オンラインより

子どもの実態に応じた
 ICTの活用方法は？

ICTのどんな機能を使えばよいのかな？

ICTを活用した自立活動の効果的な指導について

— 子ども一人一人の願いを叶えるために —

記載されている事例のこれまでのプロセスは各事例の四次元コードからご覧いただけます。
事例一覧はこちらから



CASE 01 | 特別支援学級での事例

【人間関係の形成×タブレット】 「交流学級に行きたい」



- 子どもの実態
 - ・集団からの視線が苦手で、交流学級になかなか行くことができない
- 成果
 - ・子ども：交流学級で過ごせる時間が増えた
 - ・教員：映像による視聴が、学習意欲の向上や友だちとふれあうきっかけに繋がることがわかった

取組内容

- ・交流学級の授業や活動をリモートで視聴する
- ・視聴しながら、ノートやワークシートを記入する

○使用 ICT 機器

タブレット型パソコン(撮影用1台、受信用1台)、マイクスタンド、タブレットスタンド



CASE 02 | 特別支援学校での事例

【身体の動き×視線入力支援装置】 「友達とクイズと一緒に盛り上げたい」



- 子どもの実態
 - ・障害による筋緊張から、身体をスムーズに動かすことが難しい
 - ・自分からすすんで話をするのは難しいが、新しいことにチャレンジしたい気持ちは強い
- 成果
 - ・子ども：①力をぬくことができる姿勢がわかり、座位よりも長い時間画面を注視する事ができた
 - ②視線入力支援装置を使うことで、友だちと一緒に楽しく過ごす時間が増えた
 - ・教員：映像による視聴が、学習意欲の向上や友だちとふれあうきっかけに繋がることがわかった

取組内容

- ・マットやタブレットを組合わせて身体の力を抜いて、支援が安定する姿勢を試す
- ・自分の視線の動きに合わせて操作ができるゲームを友だちと一緒に楽しむ

○使用 ICT 機器

・タブレット、視線入力支援装置



CASE 03 | 高校通級による指導での事例

【コミュニケーション×タブレット】 「自分に合うアプリを見つけたい」



- 子どもの実態
 - ・自分の言葉で説明することが苦手。
 - ・会話が一方的でその場の雰囲気を理解しにくい
 - ・友だちからどう思われているのかが気になってしまう
 - ・スマホアプリを使うことが大好き
- 成果
 - 子ども：アプリの情報交換を通じて、友だちと沢山話げできた
 - 教師：生徒が好きなことや得意なことを知るきっかけになった

取組内容

- ・自分の好きなことに役立つアプリをタブレットで調べる
- ・調べたことを友だちと情報交換しながら紙に書き出す
- ・アプリを使って発表する

○使用 ICT 機器

・タブレット



CASE 04 | 難聴の通級による指導での事例

【環境の把握×遠隔システム】 「他校の同じ障害のある人と友達になりたい」



- 子どもの実態
 - ・おしゃべりは好きだが、友だちの話が聞き取りにくかったり、聞き間違いをするときもあり、不安になることがある
- 成果
 - ・子ども：様々な機器を使うことで、相手により伝わりやすい自己紹介シートを作成することができ、自分のことをよりよく知ってもらうことができ、次の交流に向けて楽しみが増えた
 - ・教員：子どもの実態をよりよく把握することができ、日常の学習の取組に活かしたり、聞こえの違いをより詳しく理解することができた

取組内容

- ・自分の好きなことや得意なことも織り交ぜ、相手に伝わりやすい自己紹介シートを作成し、より伝わりやすいように字幕もつけた

○使用 ICT 機器

・パソコン、タブレット



CASE 05 | 特別支援学校での事例

【コミュニケーション×遠隔システム】 「安心して授業を受けたい」



- 子どもの実態
 - ・学校になかなか行きづらく、集団参加が苦手
 - ・自分の得意なことや好きな子と、将来のことを考えることが苦手
 - ・すこしずつ色々な人と話ができるようになってきた
- 成果
 - ・子ども：リモートで参加することで、自分の安心する環境下で授業を受けることができ、好きなことや得意なことをみつけるきっかけができた。
 - ・教員：生徒の実態に応じた学習環境の設定を考える事ができた。

取組内容

- ・自分が安心できる環境で、リモートで授業の様子をみることから始める

○使用 ICT 機器

・タブレット



自立活動×ICTを効果的に指導するには 事前の把握が重要!!

- 子ども・保護者の願いはどんなことですか？
- 子どもの得意なこと、苦手なことはなんですか？
- 使いたい ICT 機器はどんなことができますか？
- ICT 機器を実際に試してみましたか？
- 自立活動や ICT について相談できる人は？